

第195回 番組審議会

1. 日 時 平成22年9月14日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 10名 (欠席委員数 3名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)
三浦 宏 (副委員長)
—以下50音順—
久慈 浩介
斎藤 雅博
菅原 正二
中原 祥皓
藤原 保雄
村上 幸子
八木橋 伸之
吉田 浩次

○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
藤澤 利憲 (常務取締役)
前田 秀男 (取締役編成技術局長)
藤原 銀司 (取締役営業局長)
田山 裕明 (編成技術局次長兼編成部長)
庭田 康宏 (めんこいエンタープライズ 制作部)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題 **めざましテレビ公認 わがまま!気まま!旅気分 岩手まるごとトレジャーハンター!!**

平成 22 年 6 月 27 日(日) 13:30~14:55 放送

5. 議 事 概 要

今回は6月27日に放送した「**めざましテレビ公認 わがまま!気まま!旅気分 岩手まるごと
トレジャーハンター!!**」について審議しました。

出席した委員からは「岩手の観光地を網羅しており情報も多く、良い番組だった」、「1時間半は長いと思ったが、2人のリポーターの案内で楽しく見る事ができた」、「岩手の魅力が満載で、観光ガイドとして保存したい」など番組を評価する意見がありました。

また一方で「地元の特産品や土産物の紹介がもう少しほしかった」、「観光地までの交通アクセスの情報があれば分かりやすかった」、「県北や沿岸部の情報が不足していた」などの意見がありました。

6. 議事

○事務局

それでは、ただいまより第195回番組審議会を開催致します。

7月に退任されました中川委員の後任として、産経新聞 編集局 盛岡支局 支局長の藤原保雄様が、本日より当番組審議会の委員として出席されております。藤原委員は平成14年から18年まで4年間 番組審議委員を務められており、今回2度目のご就任となります。藤原委員の略歴は、皆様のお手元に配布してございますので、そちらをご覧ください。

本日も欠席の委員は、斉藤純委員、久慈委員・役重委員の3人です。

今回の議題は、さる6月27日に放送されました「めざましテレビ公認 わがまま!気まま!旅気分 岩手まるごとトレジャーハンター」です。

本日は、編成部長を務めております編成技術局次長の田山と、めんこいエンタープライズの庭田ディレクターが出席しております。

それでは、中村委員長よろしくお願いたします。

○中村委員長

藤原委員は2回目のご就任ということですが、これからよろしくお願い致します。

さっそく議事に入ります。田山さんと庭田さんから今回の番組の背景等についてご感想、ご説明をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○田山局次長

私の方からは「わがまま！気まま！旅気分」の番組の概要につきまして説明させていただきます。この「わがまま！気まま！旅気分」は、2000年12月にBSフジが開局し、その開局と共にスタートした番組で、開始以来10年が経った長寿番組です。

全国の子テレビ系列の局がネタを持ち寄って、年度が始まる前にBSフジでの放送月を調整します。そして、それぞれが制作した番組を自局で放送した後に、BSフジで放送するという流れになっています。

内容は各局のアナウンサーやタレントが、各放送局のエリアを中心にしたご当地の観光名所や食べ物などを紹介するという、全国発信を念頭にいたした旅番組です。お得感をもたせるために、視聴者プレゼントを盛り込んで仕上げています。

通常ですと自社制作番組は自局で放送するだけですが、この「わがまま！気まま！旅気分」は、東北ブロックの地上波の系列局で相互に放送しています。BSでも放送しますので、全国の視聴者に情報提供できるというところから、営業的なメリットも考慮しながら番組を制作しています。今日はそうしたことへのご理解をいただきながら、ご意見をお伺いしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○庭田ディレクター

今回は岩手が誇る自然や文化、味覚などを岩手の宝といたしまして、その魅力を再発見しPRする内容を企画いたしました。岩手の宝を探すトレジャーハンターには、めんこいテレビの大久保涼香アナウンサーとタレントの福島和可菜さんを起用しました。

福島さんは、別番組のロケで岩手を何度か訪れた事があるそうです。岩手に興味や親しみを持っていた事と、元陸上自衛官という経験を生かしながら、笑いや感動溢れるトレジャーハンティングができるのではないかと思います、起用しました。福島さんと大久保アナウンサー2人そろってのロケは実は3日間でした。この3日間で盛岡、宮古、遠野、花巻、平泉を回るというハードなスケジュールでしたが、福島さんはじめ出演者、スタッフとも和気あいあ

いの雰囲気の中、撮影が進められたので、その空気感が画面に出ればいいなと思いながら収録しました。

制作にあたっては、県外での放送もあることから全国の視聴者に分かりやすいようにという事を心がけました。また、県内の視聴者にも新たな発見があるように心がけながら制作しました。よろしくをお願いします。

○中村委員長

それでは委員の皆様からご意見、ご感想を伺っていきたいと思います。
藤原委員からお願いします。

○藤原委員

先ほどのご挨拶で「厳しい事を言うかもしれませんが」と申し上げましたが、ないですね。完璧だったと思います。構成が良かったです。鉾屋町のあたりは、今、町屋ブームで、城下町特有の風情を生かしたところでした。そこからぐるっと回って最後は世界遺産を目指す平泉でした。岩手にいる人も岩手に住んでいない人も、非常に楽しめた番組構成だったというのが第一印象でした。

それから品も良かったと思います。ちょっとこれ以上下品になると困るな、危ういなと思うところもあったのですが、なかなかアットホームな雰囲気を大切にしながら非常に楽しめましたし、飽きませんでした。宮古の釣りの場面で、あそこで魚が釣れたら番組的にマズイなと思ったのですが、そこもうまく逃げて良かったです。

個人的なことですが、私は鉾屋町に17歳まで住んでいました。画面で見るとすごくいいのですが、本当はあのようなではありません。でも、すごく懐かしかったです。

文句の付けようのない良い番組でした。

○中村委員長

たいへん辛口ではないコメントでした（笑）ありがとうございます。辛口のコメントはこの後から続くと思います。

では、菅原委員をお願いします。

○菅原委員

きょうは辛口でのぞみたいと思います。一番は福島隊長のほふく前進、あれに度肝を抜かれました。トカゲが走るようなスピードでしたが、あれに私は完全にひれ伏しまして信用することにしました。あのほふく前進は伊達や酔狂ではないですよ。ね。「やれ」って言っても出来ないですよ。あの最初のシーンで番組に説得力をもたされてしまったので、以後、全部許すという気持ちになりました（笑）あれにはちょっとビックリしました。今回の番組で一番印象に残るのは、ほふく前進です。

岩手県は四国4県分と広いので、県南に住んでいる僕らは県北のことを知るには50年位かかります。最近になって番組制作で少しくリアして来たなと思ったことは、1時間半の番組で一挙にあれだけ網羅したというのはちょっとした快挙です。そこに一番感心しました。僕は嬉しいことに番組で紹介された所の8割位は行っています。番組で見た所は、自分でも意識的に探訪してやろうと思ってきました。海外などに行く前に、岩手県をもう少し知らないといけないと思って意識的にやっています。今回バアーツとやられまして、相当密度の濃い番組でした。1時間半の番組で、あれだけ岩手県全部を網羅されると、たまりませんという感じです。岩手県は本当はいい所なんですね。この番組がBSなどで放送されると、岩手県の非常にいいコマーシャル番組になって、いい結果になると思います。

欲を言ったら切りがないのですが、例えば龍泉洞とか、八幡平の時にも小岩井が抜けていました。2秒か3秒でもいいので、もう少し映像だけでも追加するとなお良かったという気がしました。とにかく面白く見ることが出来たので全く文句はございません。

ほふく前進のスピードで最初から信用してしまったので、今回は私の負けでした。あまりきついチェックはしないで楽しんで見ました。これが全国放送になるのが楽しみです。お疲れさまでした。

○中村委員長

福島和可菜さんの起用が成功したみたいですね。

では、八木橋委員お願いします。

○八木橋委員

紹介番組としては、万遍なく全県をうまくブロックにまとめて非常に良かったのではないかという気がします。飽きないで見ることが出来ました。

こういう言い方は失礼かもしれないけど、レポーターがあまり美人過ぎる人だと、そちら

に目があってしまい、景色に目がいきません。そういうことで、ちょうどいい人選ではなかったかと思います。

番組自体も、私は非常に良かったと思います。テンポも良く飽きないで見る事ができました。そういう意味で、楽しい番組だったと思います。

最初に趣旨を聞いて分かったのですが、こういう紹介番組は、岩手に興味がない人に知らせるタイプと、ある程度、例えば賢治が好きだという人とか、岩手が好きだという人に紹介するという2種類があると思います。冒頭のお話で全国版ということでしたので、そうすると全く岩手を知らない人にも紹介するという切り口ならば、これでもいいのではないかという気がします。例えば九州の都市がどこにあるとか、福岡から熊本に行くには何線を通ってどういう鉄道に乗っていくかというのは小中学生が試験で間違えないとしても、何十年も経った我々は全然覚えていません。そういう意味では知らない人に岩手を紹介するには、あの位でいいと思います。

賢治が好きな人とか、三陸の海が好きで来る人、岩泉線でこの間、崖崩れがありましたが、乗っていた人がほとんど関西の人だったり、岩手の鉄道が好きで来ている人もいますので、そういう切り口でたまにやっていただければと思います。

個別的な部分でいくつか気になった点を上げますと、冷麵のところ「びよんびよん舎」が紹介されましたが、盛岡に住んでいる人間からすると比較的新しい店なので、もっと古い店でないと本当の冷麵ではない感じがしました。八幡平のところ「彩冬」という所が出てきましたが、あれはかなり新しい宿ですね。新しい施設は、場所とか詳しく教えてもらえば、もう少し良かったと思います。海のところ、「海からの景色が素晴らしい」と言いながら、あまり海から陸を見た景色、シーンが少なかったです。あとはカッパ淵のいつものオジさん、ちょっとマンネリ化していますが、全国版としてはあれでいいのかと思います。平泉の毛越寺で古い建物をずっと紹介していただいて良かったです。例えばイラストで位置図を出すとか、寺の並び方を絵を描いて出すと分かりやすかった。そうすると無量光院と池との関係などがよく分かったと思います。1枚の絵を5秒ぐらい出すだけで分かりやすくなったのではないかと思います。

全体的にみると非常に良くまとまっていて、飽きないで見る事ができました。全国的に紹介するのであれば、あのようなまとめ方でいいのではないかと思います。

○中村委員長

齋藤委員、お願いします。

○齋藤雅博委員

岩手の観光を全国発信するという意味では、主要な観光スポットを丁寧に紹介していて岩手の魅力を十分伝えることができた良い番組だったと思います。内容的には主に観光スポットと美味しい食べ物の紹介でしたけれども、そのバランスが良かったのか、飽きずに見る事ができました。最初、1時間半の番組なので少し長いかと思っていました。日曜日の午後という放送時間ですが、私も日曜日の午後にDVDで見ました。日曜日なのでゆっくりした感じで見る事ができて、岩手の良さを改めて感じる事ができました。

先ほど福島さんの話しが出ましたが、最初出てきた時には私も驚いて「この人がガイドだとちょっとうるさいかな」と思いました。所々で話す彼女の感想が、案外初めて岩手を訪れる人の素直な感想なのかと感じました。2人でゲーム感覚を取り入れてやったのが飽きない理由のひとつなのかと思いました。

番組の最初で少し説明があったのですが「わんこきょうだい」は岩手県の観光キャンペーンのキャラクターで、意外と知られていないのです。今回、番組で取り上げたのは、それを普及させるという意味でも良かったと思います。「わんこきょうだい」の名前が示すそれぞれの食材もきちんと紹介されていて、地産地消の推奨番組にもなっていたと思います。

それから旅番組なので、その情報量という点で、地図情報や掲示板的に出ていた付帯情報が過不足なく出ていたと思います。この番組は3日間の行程だったのですが、最後に3日間どのように回ったかをきちんと示してくれたなら、県外のお客さんの参考になったと感じました。前回の「旅気分」は、遠野物語100周年で遠野の特集でした。前回のようにスポット的に詳しく紹介する番組も必要だと思いますが、今回のように県内を網羅的に紹介する番組も、観光PRとして非常に効果があるのではないかと思います。

最後をお願いなのですが、岩手は四季がはっきりしているということで、四季それぞれ春夏秋冬のシーンを、全国発信していただければと思います。

○中村委員長

中原委員、お願いします。

○中原委員

私はこういう番組が好きで、あちこちの番組を見ています。そういう中から見ていると、だいぶ力を入れた労作だと思いました。今まで4人の委員の方がいい番組、楽しい番組だと言っていましたが、まさにその通りです。そこは同じ繰り返しになりますのでやめまして、気になった事を3つ4つ紹介したいと思います。

第一は、6月27日の放送日をご案内いただいて、その日に見たのですが、日曜日の1時間半は長かったことです。めざましテレビ公認ということでしたから、めんこいテレビだけ1時間に縮めるというわけにはいかないでしょう。一時間半という長さですと、見ている間に用事ができてCMの間にテレビの前を離れたり、他の用事があったりして、案外見られないものです。1時間位ならじっくり見られるのではないかと私は思います。

これはどうにもならないということですので、よしとして、もうひとつは久慈の北限の海女です。6月27日の放送ですが、その頃すでに若い海女さんは2人になっていて、その後、もうひとり若い女性が増えて3人になりました。27日に見る時は皆それが念頭にあるわけです。そうしたことが台詞にもなかったし、映像にもなかったことです。それがちょっと気になりました。もちろん取材した時に、若い海女さんが現場にいないということは、やむをえないでしょう。ならば紹介のコメントだけでも入れて、これから期待が持てるようにやってもらえるようであれば良かった。サラッと映像に2人が海に潜るところが見えたので、余計に感じました。海女さんの後継者の問題は、岩手の人間はかなり気になることではなかったかと思います。

番組を展開する時に「指令書」というものを出していましたが、どこかの局でも、スタイルは違いましたが、「何々について探してこい」という「指令書」が出て、出演者が動くという番組が何回かあって興味深く見ていました。スタイルは違っても、ちょっと二番煎じの感じがして、展開でもう一工夫欲しいな思いました。

豆腐の紹介で、盛岡は家庭での消費量が日本一とのことですが、盛岡市内には豆腐買地蔵尊というのがあります。その豆腐買地蔵尊で毎年10月2日の豆腐の日にお祭りをするんですよ。「豆腐買地蔵尊があるよ」と、ちょっと加えてあげたらどうだったのかと思いました。

もうひとつは遠野のジギスカンの紹介で「50年を越す老舗」という台詞がありました。「老舗」は50年越しでは普通は言いません。古いことには違いはありませんが、参考までに広辞苑を開いてみると、100年から200年経った店を「老舗」というそうです。僕もあの店には行ったことがあります。台詞を選ぶ時は言葉の重さを考えていただきたい。特に年配の人たちには気になることだと思います。

全体的には面白いし、私も知らないところがありました。宮古の海岸の「八戸穴」というのが八戸に通じるということで「本当か?」と思いましたが、伝説というのでそれはそれでいいと思います。新しい事を教えていただきました。いずれ「八戸穴」というのは面白いと思いました。

私の前にお話された委員の方々の番組の良さというのは、正にその通りであります。これは何か賞があるとか、順位は付けたりするのですか? (付けません) そうですね。それでは、余計安心して見られるという良さもありますね (笑) いずれ労作だと思いますし、見ていて楽しい番組でした。

○中村委員長

なかなか好評なコメントが続いておりますが、村上委員お願いします

○村上委員

本当にタイトなスケジュールだったと思います。広い岩手を網羅しており、かなりの移動距離があったのではないかと思います。大久保アナと福島さんという明るく可愛い2人のトレジャーハンターという仕掛けで番組が始まったわけですが、最初、この2人に付いていけるか、このテンションに最後まで付いていけるか心配がありました。でも、あまり弾け過ぎることもなく、かといって白けさせることもなく、ちょうどいい感じのお2人のキャラクターだったと思います。

大久保アナは岩手のことをたくさんご存知ですし、福島さんは初めてのレポートだったと思うんですけど、それぞれの感想、感動が素直に表われていて、気持ち良く見る事ができたと思います。

盛岡は町中と三大麺が紹介されました。私にとっては、久しぶりにテレビでわんこそばを食べるシーン見ましたが、女性2人が食べるとこんな具合になるんだなあと思いながら、番組を見ました。大久保さんが63杯で福島さんが71杯召し上がっていましたが、大体、女性の観光客の平均はこれ位だと思います。となると同じ年頃の女性が見て「これ位食べられるんだ」と分かるわけで、わんこそばのガイド、入門篇としてすごくいい映像だったと思います。一口これ位でと見せて、お碗を重ねるとこれ位というシーンに臨場感があって、シンプルで、とても印象に残ったシーンでした。

八幡平市もお天気が良くて良かったなあと思って見ていたんですが、霧がかかると、とん

でもなく悪い見通しになります。本当にスカッとした風景が見られて良かったなと思います。

山田線に乗ったり浄土ヶ浜も紹介され、浄土ヶ浜パークホテルのウニ井作りの体験のシーンもありました。同じようなことは岩手の観光地あちこちでやっていますので、「何ができるのかな？」という観光客のいいヒントになったと思います。

番組で紹介されたところを同じように回ろうと思ったら、車・電車など交通手段をいろいろ使わないと回れないルートだと思います。所々、山田線に乗ったりとか、三陸鉄道に乗ったりとかあったんですが、そうした交通の全体的なアクセスで、車なのかバスなのか鉄道なのかが分かれば、位置関係や移動時間の目安、盛岡からの距離がもう少しつかみやすくなったと思います。

岩手の観光地といいますと、皆さん想像する所がいくつかあると思いますが、それをくまなく回っていただきました。地元でも遠くからお客さんが来た時にどこに連れて行こうかと悩みます。いつも行くところだと思いながら番組を見ていましたが、やはり行けばいい所なんだということを改めて感じました。地元の間人をお客さまをお連れするのにも、とても参考になったと思います。八幡平の「彩冬」さんも熱心にやっています。そうした非常にローカルな情報と大きな情報があって、地元の間人にもためになったと思います。

○中村委員長

では、久慈委員お願いします。

○久慈委員

ちょうど10月に茨城からお客さんが来るので、思わずこの番組のビデオを送ろうかと思いましたが、送ってしまうと僕がしゃべる部分がなくなるので送りませんでした。僕が案内しようと思っている所と重なっている部分も多くて、あらためて番組で紹介されたところを、すごくいいなと思って見ました。

切り口が「わんこきょうだい」のようなやり方はとてもいいんじゃないかと、思いました。私の子供たちは「わんこきょうだい」の歌が大好きです。そういった意味でも大人から子どもまでが見て、とても親しみやすいということを感じました。

できればもう少しお酒を取り上げてもらえれば良いなと思いました。日本酒だけではなく、ワインとか、いろいろ取り上げてもらえれば良かったと思います。地酒としては、岩手県には25から26の蔵元がありますし、ワイナリーは紫波にも、花巻にも、葛巻にもあります。

観光には酒もセットですので、今度は酒も取り上げていただければありがたいと思います。

「岩手ってこうだよ」と網羅しているという意味では、番組は本当に良かったと思います。県外の人が見る上では非常に参考になると思います。保存版になるのではと思って拝見しました。

○中村委員長

吉田委員、お願いします。

○吉田委員

この番組は食あり歴史あり、そして、自然ありと本当に盛りだくさんな内容で構成されていて、約1時間半を飽きずに楽しく見る事ができました。全体の流れを見ていて、前回の「旅気分」と違う部分がありましたが、今回は大久保アナと元自衛官の福島さんを起用したところに、全ての流れの良さがうまく出ていたと思いました。

番組を見て記憶に残ったというか、素晴らしいと感動した部分は、八幡平の雄大な自然、三陸海岸の絶景でした。さらに平泉、遠野、花巻など、それぞれの観光のスポット、グルメを上手に編集していました。あの辺は全く文句のつけようがないという感じでした。

それでは批評にならないので、私なりに何とか粗探しをしようと思って見ました。花巻の温泉のところで、卓球をやって勝ったほうがお風呂に入れるというのをやっていましたが、もう少し工夫が出来なかったのかなと思いました。花巻にちなんだもので何かゲームをやるとか、もっと関連性があることでの工夫が大事なのではないのでしょうか。

欲を言ったら切りがありませんが、宮沢賢治の話が出た時に、宮沢賢治が出るのならば石川啄木も紹介して欲しかったとか、高村光太郎にも触れてもらった方が良かったとか、切りがなくそういう方々が出てくるわけです。

今回の番組のテーマのなかに新たな発見という話がありました。今回、岩手の宝探しというなかで、ちょっと不足していたなと感じたのは、旬のもの、今の岩手の新しいものの発見という点で足りないところがあったのではないのでしょうか。例えば宮古のマリンスポーツとか、洋野町のサーフィンとかパラグライダーとか、トライアスロンなどさまざまなものがあります。今回のトレジャーハンターという事からしますと、福島さんの起用もあって、何となくアウトドアというようなイメージがあります。そのイメージがもっと生きたのは盛岡の川下りです。ギネスに認定されたことを大々的に表現しても良かったのではないかと思います。

した。欲を言ったらキリがありませんが、そのように感じました。

もう一つ感じたことは、見る方の側からいたしますと、番組の構成として県内の方々に向けてスポットを当ててやるものと、全国版としてのものとあって、どうしても無理がくると思います。全国の方にBSを含めて流すことになると、岩手の知名度の高い有名なもの、雄大な自然を含めて、そこにウエイトを置くというスタイルになると思います。どっちつかずになると中途半端になる。その辺のメリハリを明確にしたほうが良かったと思います。

私も岩手に生まれて、岩手に育ちましたが、番組で紹介された「岩手の宝」を見て、改めて「素晴らしい」と思いました。岩手の良さが存分に表現されていた素晴らしい番組だったと思います。

○中村委員長

三浦副委員長、お願いします。

○三浦副委員長

上手に、また巧みにまとめられていて、いい観光ガイドとして見させていただきました。私も地元出身ですけれど飽きずに見ることが出来ました。

こういう番組は放送するタイミングもあると思います。戊辰戦争とか明治維新が話題になっている時は、そういったものに触れるといいのかなとか、どなたかに注目が当たっている時に、その人に関係する話題を扱うと面白いのかなあと思います。

「風景」「食」「自然」ということでありましたけれども、今日の新聞の書評欄に、作家の高橋克彦さんのライフワークである「蝦夷」「地方の歴史」の、お話しが出ていました。岩手の場合はアテルイから始まった藤原文化、前九年の役、後三年の役、九戸の乱、戊辰戦争があり、歴史的に見ると、けして辺境ではなくて、中央との関係が密接な深い歴史がある地域だということでした。私が学生時代に教えてもらった日本史の高橋先生もそういうことをおっしゃっていました。歴史的にみて大変特異な、厚みのある歴史をもった地域なので、そういったところにスポットを当てていただく番組がぜひ欲しいなと思いました。

学問とか政治、作家、画家といった面で人材が、これほど輩出した地域は他にないのではないのでしょうか。石川啄木や画家の萬鉄五郎、松本俊介もいます。私どもの会社のすぐ近くには深沢紅子の美術館もありますが、非常に幅広く人材が出ています。原敬、後藤新平、斎藤実、米内光政などの日本史の中で輝きを放つ政治家も出ておられるし、私のお隣の中村学

長のような世界的に著名な研究者もおられます。私のお寺に山口青邨のお墓もあります。ここに住む人の全国での割合を考えると、優れた人物をこれほど輩出している県は少ないのではないのでしょうか。そういう偉人が出ていることについて、紹介してもらえる番組があればいいのかなと思います。

他局ですが、明治維新の頃を取り上げた番組では、高知県や長崎県、山口県 鹿児島県が脚光を浴びるわけですが、我々の中でも戊辰戦争を通じて南部という地域がどれほど頑張ったかということで、例えば南部藩の檜山佐渡の話などもぜひ取り上げていただければと思います。今回の番組は大変面白く見させてもらいましたが、ぜひ、いつかの機会にはそういう人物や歴史を掘り下げたものを見たいと思います。盛岡であれば米内光政のプロフィールを知ることが出来て、小さい頃の思い出話を知っている人とか、お爺ちゃん、お婆ちゃんからこういう話を聞いたことがあるとか、原敬、後藤新平、斎藤実の子どもの頃、こうだったとか。実はこういうことがある。そういうお話をぜひ見たい、聞きたいという勝手な思いもありました。そういう番組は裾野を広げると思います。山口県の萩は有名ですし、鹿児島市も有名です。昔、鹿児島の知覧に行った事がありますが、歴史のある町は裾野が広がるし息の長い観光ができます。それだけの素材を地域がもっていると改めて思いました。ぜひ、何かの機会にそういう番組があればいいなと念願しているところです。

この番組は本当に上手にうまく、女性キャスターも面白く見させてもらって、スタッフの方々のご努力に敬服しました。

○中村委員長

ありがとうございました。違った切り口からお話をいただきました。

私の感想ですが、番組としては大変面白く、まとまっていて、よく出来た番組だと思いました。特に大久保アナと福島さんのコンビは新鮮で、最初どうなるかと思いましたが、最後まで飽きずに軽妙な司会で、番組自体を生き生きとしたものにしてくれたと思いました。私は家内と見ましたが、家内はいつも辛口のことを言います。あのタレントは、あのアナウンサーはなどと文句ばかり言う人ですから、何を言いたすかと思っていましたが、好評だったのでびっくりしました。そういう意味で番組進行役としてはいい方を起用したと思います。

所々出てくる地元の方の案内人、例えば八幡平の観光協会の海藤さん、あの方もタレントのような非常に面白い方で、それも新たな発見でした。先ほど、番組制作の背景をうかがって、今、岩手を全国に知ってもらおうという初心者向けの番組としては、大変素晴らしく良く出

来ていて、まとまっていたと思います。

全体を見ていくつか不満なところがありました。花巻のあたりは「そばっち」がキャラクターということでしたが、他のところはキャラクターの食べ物がでてきましたが、「そばっち」に関わる食べ物は何かあったのでしょうか？そば関係では、何も出てきませんでしたよね。あそこはジンギスカンがメインのようでした。そこはちょっとはぐらかされたような感じがしました。

「こくっち」のキャラクターで八幡平を取り上げましたが、もっと県北に何かあるような感じがものすごくしました。県北から沿岸部が手薄だったという感じです。岩手としては当たり前の所、私達が良く知っている平均的な所「またか」という所を取り上げていました。もう少し新たな発見、発掘をしてほしかったと感じました。今回紹介された所はいろんなテレビ番組でも取り上げられています。切り口は違うのかもしれませんが、場所的には同じような所が出ていて、岩手にはもっと違う所があって、違う新たな発見があって、岩手県人が見ても「こんな所があったんだな」という所を見つけていただければもっと良かったと思いました。

1時間半の番組でしたが、後半になってくると少し平板になってきました。最初はほふく前進に魅せられていたんですけど、後半になると淡々と普通に終わってしまったという感じです。最後に止めを刺してもらえようなどころを作ってもらえれば、盛り上がったのではないのでしょうか。全国の方に岩手を知ってもらおうという意味で、最初に見た方に対してはいいと思いますが、もう一ひねり、二ひねりあっても良かったのかなという印象でした。

番組を見ただけでは、誰に向けて、何を目的にして作ったのか良く分からなくて、今日お話を聞いて分かったのですが、その辺の説明を聞かないと分からないということだと、ちょっとどうかなという感じがします。番組を見ながら、たぶん全国に岩手を紹介する番組なのだろうということは想像しましたが、それにしてももう少し誰に向けて、どういう意図で作ったということが、何となく番組で表現されればいいのかないかなと思いました。

いずれにしても、番組としてはよくまとまっていて、面白く見ることができました。

委員の皆様、言い残したことや聞き忘れたことなどありませんか？

○八木橋委員

遠野のジンギスカンについてですが、昔あの辺で羊を大量に飼っていて、それがジンギス

カンの発祥だという紹介がありました。昔というのはいつ頃ですか？

○庭田ディレクター

ホームスパンで羊毛を取っていた時代があったそうで、戦後の50年ぐらい前だと思います。

○八木橋委員

ホームスパンが入ってきたのは昭和28～29年から30年代です。昔と言っていたので気になりました。

○中村委員長

続いて欠席委員の方からのレポートを事務局からお願いします。

○事務局

斉藤純委員のレポートです。

オギャル（死語ですね）が「ワ～キャ～」と楽しそうに岩手を旅したこの番組、私は完璧にこの番組のターゲットではないので、簡単にコメントします。

岩手の魅力のあれこれをサラッとコンパクトにまとめていて、全国放送向きだと思った。元陸上自衛隊の福島さんがいい味を出していた。あのほふく前進は見事だった。

東海林委員のレポートです。

岩手・平泉観光キャンペーンのキャラクターは、盛岡駅でポスターを見て以来気になる存在でした。ネーミングセンスとキャラクターの可愛さは、ご当地ピンバッチになって観光地でガチャポンに入っているのもいいなと思うほど。

すでに私の旅行カバンには、首里城やら函館やらのご当地ピンバッチがついています。

岩手はないかなとネットで検索したら、県の観光協会のサイトでピンバッチではなくストラップを見つけました（ストラップはあまり使いがありませんが…）。ただネット通販用ではなく、そのエリアでしか買えないというもの。

そうなる、行ってみたいくなります。

旅番組って、おいしいものや観光名所がメインですが、その土地の特産品のおみやげの紹介は少ないように思います。

ストラップはともかくとして、そこでしか買えないおみやげも教えていただけると嬉しい。番組は、ご飯を食べながら気楽に見るのに楽しい内容でした。

ただ、ウニどんぶりが宮古レストハウスや、釜石のまんぷく食堂さんというのは、あまりに普通。あの値段なら盛岡でも同じくらいおいしい店があるからです。ご当地ならではの、「そこに行くといくら安く食べられるの!」と感じるから旅に出る気になるのでは?

美人すぎる海女さんが辞めてしまったのは、そういう意味では「ならでは」感がなくなり、残念ですね。

広範囲の取材なので、ご苦労がおありだったと拝察いたしますが、岩手の視聴者にとってはあまり新しい発見はなく留まってしまった感があります。

でも、他県の方で、短期間での岩手の観光を企画している方々に対しては、県土を広く紹介するのにいい番組だったと思います。盛りだくさんで、よくまとめられたなど、テレビに向かって頭を下げました。

役重委員のレポートです。

90分番組、本格的な岩手観光案内ということで期待して見ましたが、冒頭の盛岡の湧き水、お豆腐屋さんから最後平泉まで、どこをとっても『既視感』があり、まあ内容は可もなく不可もなくといったところでしょうか。

ナビゲーターのお二人はフレッシュで、崩れ過ぎず清潔感があり、とても良かったですよ。でも、これは類似の過去番組をいくつも見ている審議会委員だからかもしれませんが、あまりにも見たことありすぎるといえるか。素材の問題でしょうか。それとも見せ方、組み方の問題でしょうか。

逆に、考えてしまったのですが、こういう旅番組は永遠の定番、永遠のワンパターンということで、それでいいのかもしれませんが。前に松尾芭蕉の道中を再現して旅装束姿のリポーターが案内するという演出を見たことがある気がしますが、まさにリポーターを変える、装束を変える、演出を変えるというくらいしか、この手の番組にはディレクターの手の入れどころがないのかもしれませんが。逆にいえば岩手には、変にひねらなくても真っ向勝負で何度

でも見せれる素材が豊富にあるという見方もできます。

もし、もう少しひとひねりして『見たことある感』を緩和しようとするのであれば、一つにはテーマで深く突っ込む方法があるでしょう。世界遺産の早池峰神楽ひとつとってもその世界、岩手の山の暮らしとの結びつきはどこまでも限りなく深く、そのテーマで岩手の自然・民俗を1周することさえできます。あるいは、『旅する人』の〈目線〉をもう少し掘り下げるのもありですね。だいたい人は、誰もがただ食べたい、〆入りたい、きれいな景色みたい、だけで旅に出るものでしょうか。たとえば『誰かを忘れるための旅～失恋編』とか『大事なひとと思い出をつくるための旅～友情編』とか『自分自身を見つめ直すための旅～旅立ち編』とか？ そういう色んな思いに背中を押されて人は旅に出るものだとしたら、その目線で見る岩手はまた違う色合いにあふれているのではないのでしょうか。

最後に、いい意味で、せつかく一般的な、トータルな、誰にでも受け入れられやすい番組ができたのだから、放送して終わりではなく、たとえばこれから東北観光熱がまだまだ上がりそうな中国や韓国の人々にアピールとして見せるような使い方を考えてはどうかと思いました。

レポートは以上です。

○中村委員長

ありがとうございました。

最後に何か質問やご意見はありませんか？

ないようですので、本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は9月25日（土）朝4時42分から「めんこいテレビ番審りレポート」として放送いたします。

次の開催は10月12日（火）となりますので、よろしくお願ひ致します。

それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置
特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成22年9月15日（水） 産経新聞 東北版

* 平成22年9月25日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番組リポート」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項
特になし